

第1号議案

令和5年度

事業報告書

一般財団法人日用金属製品検査センター

令和5年度事業報告書

一般財団法人 日用金属製品検査センター

1. 事業概況報告

受託業務としては、従来に引き続き一般消費者の安全・安心を確保するため製造業者、輸入業者、販売業者などを対象に、試験・検査業務を実施した。

品質方針として「常に安全性向上を心がけ、関連規格・基準などに則り、または準じて、適時・的確な日用製品の試験・検査結果を提供する」を継続して掲げ、業務管理マニュアルとして ISO9001：2015 及び JNLA 登録へ向けての ISO17025:2017 に則るとともに法令を遵守して試験・検査サービスを実施した。

令和5年度の収支は、事業受託計画77,000千円に対して受託実績が78,633千円（達成率102.1%）（前年比108.4%）であった。

収益の改善のため4月から一般性能関係の手数料を見直したことで、一般性能の件数が8%増でSGロットの落ち込みをカバーした。

2. 個別事業

令和5年度の依頼検査・試験実績を表1に示す。

表1 令和5年度依頼検査・試験の実績（単位：千円）

年度		令和5年度 事業予算 (A) (千円)	令和5年度 実績 (B) (千円)	令和4年度 実績 (C) (千 円)	計画達成率 (%) (B)/(A)	対前年度比 (%) (B)/(C)	
項目							
依頼 検査	SGマー クロット 認証製品 検査	燕	14,200	(549) 9,562	(719) 13,099	67.3	(76.4) 73.0
		大阪	2,000	(117) 1,435	(137) 1,837	71.8	(85.4) 78.1
		(小計)	16,200	(666) 10,997	(856) 14,936	67.9	(77.8) 73.6
		SG・PSC 型式認証 (工場認定・試買)	1,500	(14) 1,533	(17) 1,454	102.2	(82.3) 105.4
		SG・PSC ロット認証 (IH・缶切等7品)	2,000	(38) 1,380	(47) 1,789	69.0	(80.9) 77.1
		出張料	300	(200) 234	(293) 316	78.0	(68.3) 74.1
		小計	20,000	(918) 14,144	(1,213) 18,495	70.7	(75.7) 76.5
依頼 検査	一般性能関係		50,000	(2,165) 57,681	(1,859) 45,943	115.4	(116.5) 125.5
	化学分析	燕	3,000	(149) 3,553	(205) 4,395	118.4	(72.7) 80.8
		大阪	1,500	(33) 1,446	(32) 1,567	96.4	(103.1) 92.3
		(小計)	4,500	(182) 4,999	(237) 5,962	111.1	(76.8) 83.8
	クレーム関係		1,800	(27) 986	(38) 1,383	54.8	(71.1) 71.3
	運送料		700	(544) 823	(563) 772	117.6	(96.6) 106.6
	小計		57,000	(2,918) 64,489	(2,698) 54,060	113.1	(108.2) 119.3
小計		77,000	(3,836) 78,633	(3,911) 72,555	102.1	(98.1) 108.4	
助成金、雑収入		4,675	4,381	0	93.7	—	
合計		81,675	83,014	72,555	101.6	114.4	

() 内は受託件数。

(1) 依頼検査

イ. SG・PSCマークロット認証検査

安全・安心の製品の普及のため一般財団法人製品安全協会が実施しているSG・PSCマーク認証事業の一環として行う重要な製品検査であり、製品の製造及び出荷のロット毎に抜き取りによって製品を確認するものであり、前年度比の金額では73.6%、件数では77.8%となった。

ロ. SG・PSC マーク型式認証検査

同じく SG・PSC マーク認証事業の一環で、工場登録を受けた製品に対して初回及び3年もしくは5年毎に実施する性能検査であり、前年度比の金額では105.4%、件数では82.3%となった

ハ. SG・PSC マークロット認証特殊検査

同じく SG・PSC マーク認証事業の一環で、ロット認証製品の初回及び6か月毎に実施する性能検査であり、前年度比の金額では77.1%、件数では80.9%となった。

(2) 依頼試験

イ. 一般性能試験

依頼の多い試験項目は、耐荷重・引っ張り、取っ手の強度、耐食性、耐摩耗性、一酸化炭素発生量等であり、他にガラス熱衝撃試験、材料硬さ、鍋ツマミトルク、鍋容量計測、魔法瓶の保冷・温効力試験、塗膜の硬さ、合成樹脂の材質判別、蛍光X線分析、異物の分析など多岐にわたるもので、前年度比の金額では125.5%、件数では116.5%となった。

ロ. 化学分析試験

ホルムアルデヒド、カドミ、鉛、アンチモン、重金属、過マンガン酸カリ、蒸発残留物、フェノール、亜鉛などの溶出・分析試験（食品衛生試験）等を、外部委託を含めて実施したものであり、前年度比の金額では83.8%、件数では76.8%となった。

ハ. 表記制度

新規事業として実施しているもので、試験・検査で一定レベル以上と評価したものを商品パッケージ等へ、当機関名と登録番号を表記して貰うものであり、手数料は無料としている。

ニ. 製品の苦情発生原因究明（クレーム対応）

クレーム対応については、昨年の38件から27件と減少し、金額では71.3%、件数では71.1%と順当に減少している。

主な傾向としては、いずれも件数が少なくなっており特に特出した傾向とは言えなくなってきた。

表2 令和5年度製品の種類別苦情内容と件数()内は令和4年度実績

製品種類 苦情内容	鍋	フライパン	ケトル	ハンドル	金属製品類	家庭用調理器具類	合成樹脂製品類	ガラス製品類	その他	合計
サビ・変色・腐食等	(1) 0	(0) 1	(0) 0	(0) 0	(10) 6	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(11) 7
異物・付着物等	(0) 1	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 1	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 2
塗膜・剥離等	(0) 0	(5) 3	(0) 1	(0) 0	(1) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(6) 4
異臭等	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0
破損等	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(3) 1	(1) 2	(2) 0	(0) 0	(1) 0	(5) 5	(12) 8
その他	(2) 3	(4) 0	(0) 0	(0) 0	(2) 2	(0) 1	(0) 0	(0) 0	(1) 0	(9) 6
合計	(3) 4	(9) 4	(0) 1	(3) 1	(14) 11	(2) 1	(0) 0	(1) 0	(6) 5	(38) 27

(3) その他

令和5年度末時点の主要設備を表3に示す。

表3 主要設備

主要設備名	仕様・用途	備考
エネルギー分散型 蛍光X線分析装置	(株)島津製作所 EDX-8000	平成28年 6月
炭素硫黄元素分析装置	エレメンタージャパン (株) inductorCScube	令和 6年 3月
引張試験機 (リフレッシュ)	(株)島津製作所 AG-I 50kN	令和 4年 3月
赤外分光分析装置	(株)島津製作所 IRspirit	令和 3年 1月
ハイスコープアドバンスト (マイクロスコープ)	(株)ハイロックス KH-3000	平成17年 3月
	(株)ハイロックス KH-1300	平成24年 4月

3. 役職員の状況

イ. 役員（理事、監事、顧問）

令和5年度末の状況は表4のとおりである。

表4 役員名簿

役員	氏名	勤務形態	担当職務・現職
理事長	小島 陽	非常勤	(一財) 日用金属製品検査センター 理事長
専務理事	小林 武夫	常勤	(一財) 日用金属製品検査センター 専務理事、事務局長、庶務・経理部長
理事	永井 直人	非常勤	新潟大学大学院自然科学研究科 教育研究高度化センター 教授 工学博士
理事	佐藤 一男	非常勤	公益財団法人 燕三条地場産業振興センター 専務理事
監事	山崎 悦次	非常勤	山崎金属工業株式会社 代表取締役社長
監事	小林 貞夫	非常勤	日本金属洋食器工業組合 理事長 小林工業株式会社 代表取締役社長

ロ. 役職員の事務所配置

令和5年度末の常勤役職員配置は表5の通りである。

表5 常勤役職員の事務所配置（理事長除く）

区別	性別	燕事務所	大阪事務所	計
常勤理事	男	1	0	1
職員	男	4	1	5
	女	5	0	5
計		10	1	11

ハ. 会議及び開催回数などについて

- ・理事会：令和5年6月2日決算理事会、令和6年3月18日予算理事会を2回実施した。
- ・評議員会：令和5年6月2日決算評議員会、令和6年3月18日予算評議員会を2回実施した。
- ・月例運営会議：マネジメントレビューの一環として位置づけ：各月の業務の進捗成果及びセンターの運営についての検討会議で、実施件数、収入や依頼者苦情、不適合の有無状況、その他の議題について会議を行った。大阪事業所とはLINE通話もしくはメールのみとし会議の内容は議事録を大阪事業所へメールで送付し職員へは回覧した。
また、定期のマネジメントレビューを令和5年12月11日に実施した。
- ・業務推進会議：内部監査の一環として位置づけ、毎週月曜日の午前9時から、燕本部の全職員により申し送り、予定の確認及び協議を実施し、議事録を回覧、また理事長及び大阪事業所へメールで送付した。
また、定期の内部監査を令和5年10月10日に実施した。

以上